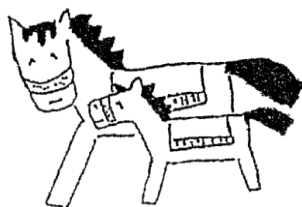


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

24年 12月 NO. 217



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857

<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		12月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
12月 7日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「絵本であそぼ」をテーマに大型やマジック絵本を楽しみます。		
12月 8日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入っていっしょに遊びましょう。		
12月 14日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	臨床美術の体験をし右脳を活性化しましょう。		
12月 15日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験においで下さい。		
12月 15日	木	木工教室 14:00～16:00	簡単な棚や箱を作ってみませんか？		
12月 21日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり相談できます。（予約要）		
12月 23日	日	創立記念発表会において 9:30～12:30	9時半からアクトホール小ホールにて。乳児さんも舞台にあがります。どなたでもおいで下さい。		

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談（月～土）9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	--

お風呂

母さまと一しょにはいるときや、私、お風呂がきらいなもの。母さまは私をつかまえて、お釜みたいにみがくから、ただひとりではいるときや、私、お風呂が好きなよ。

そこでする事、多いけど、なかで一ばん好きなのは、ぽかり浮べた木のきれに、石鹸の函や、おしろいの、かけた小瓶を並べるの。

(それはすてきな御馳走の、
ならんだ黄金の卓子で、
私は印度の王様で、
白蓮紅蓮咲きみちた、
きれいなお池に浸ってて、
涼しいお夕飯あがるとこ。)

玩具を持ってゆくことは、いつか母さま、禁めたけど、時にや隣の花びらが、散ってお船になってくれ、時にや私の指たちが、魔法つかって長くなる。

誰も知ってやしないけど、私、お風呂が好きなよ。

金子みすゞ童話全集⑥
「さみしい王女・下」より



いつも見守られている という安心感を



～ 子どもが安心できる環境づくり（後編） ～

児童精神科医 佐々木 正美

自閉症児童研究の第一線に身を置き、長年親子の心のかかわりを見つめてきた佐々木先生。子どもが安心して過ごせる家庭環境とは？前後編の後編です。

〈身近な人から信頼の輪を広げて〉

始めに、母性的なもので十分に子どもの心を満たすことが大前提ですが、子どもが4、5歳になってきたら、今度は親だけに育てられている環境ではいろいろと不十分な面もでてきます。心が満たされていれば、子どもたちの興味・関心は、もっと早くに外に向いていくものです。

子どもたちは、近所の友だちや保育者など、いろいろな人間関係を経験することで、共感性や自主性が養われていきます。そういう意味でも、家族や親せき、近所の友達など、身の回りから少しずつ輪を広げていくことがいいですね。

私の子どもも、小さい頃からおじやおばにあたる私の兄弟や姉妹と、頻繁に会って育ちました。

また、友達の家子どもがおじゃまして遊ばせていただいたり、今度はその友達とわが家で遊んだこともあります。

普段から顔見知りになって親しくしていると、子どもの友達であっても、「一緒に動物園に行かない？」となります。うちの子は、友達のお父さんに食事に連れて行ってもらったり、「息子は釣りに乗り気じゃないから」と、釣りのとても好きなお父さんに誘われて、連れて行ってもらったこともあります。そういった何気ない関係がいいですね。

私たち親自身がみんなで、自分の子どもだけでなく、親戚や地域の子どもたちを見守っていく。そういう環境があったら、「挨拶をしなさい」「仲良くしなさい」などと無理にしつけるということをしなくても、子どもは自ら学び、自然に育っていきます。

〈いつもだれかが見守っている〉

〈自分はいつもおやに見守られている〉。この実感を子どもに与えてあげることが、子育てをする上で、非常に重要です。

アメリカの乳幼児精神医学の専門家で世界的な第一人者であるロバート・エムディという研究者が、長い歳月をかけて研究をしました。赤ちゃんがどのような経緯で青少年に育っていくかを観察しながら、十数年研究して突き止めた事実があります。

たくさんの子どもを一人ひとり追いかけると、十代に入って急に非行に走る少年少女が出てきます。彼らの多くが、乳幼児期にある共通点がみられました。

生後6カ月から18カ月のときに、ハイハイをすると、大きな声が聞こえたとか物音がしたとか、目の前に見慣れないものがあるとか、予期しないことが起こった場合に、〈どうすればいいのかな〉とふっと不安を感じ、必ず後ろを振り返る仕草をします。

振り返ったところに何を求めるかという、実は自分のことを見守ってくれているお母さんや保育者の視線を追いかけている。十代に入って非行を繰り返す少年少女には、その体験が決定的に欠落しているというのです。

乳児期だから、ヨチヨチ歩きだから見つめていてあげるというだけではなく、そういう経験のずっと延長線上に、〈僕は、私は、いつも家族から見守られている〉という実感を、親は幼い子どもの心にぜひ育ててあげてほしい。安心感、やすらぎ、くつろぎを子どもに与えてくれるのが、私は親だと思っています。

「自分がそのように育てられてこなかったから、どうすればいいのかわからない」という方が親になったときに、ぱっと心が向くことは難しいでしょうが、〈見守ってあげることが必要なんだ〉と思い直したら、それだけで違うでしょう。

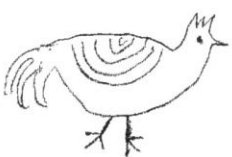
そのうえで、家庭において、子どもが安心して暮らすための一番の条件は、何よりも両親の仲がいいことです。これが基本です。いがみ合い、喧嘩する姿を見せる機会が多ければ多いほど、子どもの心は非常に不安定になり、影響は私たち大人の想像以上に大きくなります。両親の不仲は、子どもにとってみれば自分の生活基盤が揺らぐことですから、とても辛いことだと思います。

両親が仲良く、〈私たちが見守っているからね〉という実感を与えてあげる。社会的なルールを教えるといった、父性的なものはその後でいいわけです。

そのことを少しでも心がけていただければ、子どもたちの心を長年見つめてきた立場の者として、どんなにうれしく、励まされることか。後悔したり、難しく考えたりしなくても大丈夫です。「子育てはいつも今日からやり直し」でいいのですから。

佐々木 正美 (ささき まさみ)

1935年、群馬県生まれ。新潟大学医学部卒業。神奈川県小児療育相談センター所長などを歴任後、現在は川崎医療福祉大学特任教授。自閉症療育プログラム (TEACCH) を日本で最初に紹介。2004年度朝日社会福祉賞を受賞。



「ちょっと気になる出来事」

新聞のコラムに寄せられた最近の記事に、ちょっと気になることが2つ3つあった。

一つは、日本人の「果物離れ」である。以前から、日本人が食べる果物の量は欧米と比べて少ないと言われていたが、先進国の中で最低の基準だそう。特に、若い人の「果物離れ」は顕著だという。理由は「嫌いではないが、皮をむくのが面倒だから」なのだそうである。ミカンの皮むきも面倒らしい。皮ごと食べられる「種なしブドウ」などは人気が高い。他にもある。「魚離れ」「米離れ」「野菜離れ」と続く…。便利さ・手軽さに慣れた若者世代の嗜好が日本の食文化から離れつつあるように思えて、ちょっと寂しくなった。

二つは、「トリック・オア・トリート」。そう、「お菓子を頂戴！くれなければ悪戯するぞ！」とキャンディなどをねだって歩く、あのハロウィーンのことである。もとを正せば、秋の収穫を祝い、悪戯を追い払う古代ケルト人の祭りが起源である。アメリカでは、大きなカボチャを買ってきて、親子でお化けカボチャを作って楽しむ「コミュニティーのお祭り」の色合いが濃い。日本では10月に入ると、商店街はカボチャを飾り立て、マスコミもクリスマス同様の祭り気分で囃し立てる。いつの間にこんなに浸透してきたのだろう？悪いというのではないが、日本にも「豆まき」「花まつり」「七夕祭り」など、古来より家族で楽しめる四季折々の行事はたくさんあるのに…。そんな感慨を抱いたものである。

三つは、学力調査の結果である。算数の「数式が何を意味するのか分からない」。国語では、「筋道を立てて書けない」子どもが多いことが浮き彫りになったという。新しい学習指導要領は「言語活動」の比重が高い。その中心は国語である。学力調査は小6と中3を対象にしたものだが、接続語を使つての文章では、正答率が15%だったという。論理的に書くことがどうも苦手のようなのである。「国語力」はすべての基本であるだけに、とても気になって仕方がなかった。

— 日本仏教保育協会月刊紙より —

